Ⅳ－32　地域活性化における観光の役割について

秋田大学　学　生　○寺田　　龍
秋田大学　正会員　　木村　一裕
秋田大学　学生員　　三浦　大和

1．はじめに

わが国では、少子高齢化やそれに伴う人口減少などにより全国的に地域の活力が低下している。その一方で、地方分権によりそれぞれの地域において、その土地ならではの資源を活かしたまちづくりを行う必要性が強くなってきている。近年では、国土交通省の「『観光カリスマ百選』選定委員会」が観光カリスマ*を選定するようになっている。その狙いとしては、地域の資源を活かした観光によって地域を活性化することである。また、観光カリスマの選定に限らず多くの地域において、地域活性における観光の重要性が認識されている。

2．研究の流れ

本研究では、観光カリスマによる96個の観光事例をもとに、地域資源を活かした魅力ある観光の特徴や、その特徴による類型化をするとともに、地域活性化における観光の位置付けを明らかにすることを目的とする。

3．魅力ある観光の評価

魅力ある観光として『観光カリスマ百選』に選ばれた96事例について、選定理由と取り組み内容をまとめた。それにより、表１に示すA～Rのキーワード（特徴）が抽出された。これらをもとに各観光事例の特徴を整理し、数量化Ⅲ類を用いて類型化を行うためのアンケート調査を実施した。

キーワードとカテゴリーの数量などは表１、軸に関するデータは表２の通りである。カテゴリープロットとサンプルプロットは図１の通りである。

ここで第１軸の解釈は、＋側に「F：温泉」「K：運動」「G：宿」が集中していることから『ハード整備の充実（＋）』、また－側には「N：手作り作品」「M：体験」が集中していることから『ソフト的な取り組みの充実（－）』とした。さらに第２軸の解釈は、＋側に「G：宿」「M：体験」が集中していることから『一つに行事に集中できること（＋）』、また－側には「O：ストーリー」「L：交通の便」が集中していることから『数多くの行事が見られること（－）』とした。

次に、カテゴリープロットとサンプルプロットを見比べることにより、以下のことを得た。

ⅰ）C,E,H,I,Pの集合付近にNo.43「飛騨の小京都in岐阜県高山市」、No.93「古い街並みを再現 in 三重県伊勢市」が集まっている。

ⅱ）F,G,Kの集合付近にNo.38「ルスツリゾートin北海道留寿都村」、No.60「スパリゾートハワイアンズin 福島県いわき市」が集まっている。

ⅲ）A,M,Nの集合付近にNo.25「ブルーベリー観光農園in 静岡県小笠町」、No.56「農業体験in 三重県阿山町」が集まっている。

これらにより、魅力ある観光プランを大きくⅠ.歴史・文化型、Ⅱ.ハード・開発型、Ⅲ.ソフト・体験型

表1．キーワード、カテゴリー数量

	キーワード	第1軸	第2軸
A	交流	-1.10	1.17
B	ホスピタリティー	0.06	0.28
C	地域（住民）の一体感	0.15	-0.31
D	イベント・祭り	0.02	-1.04
E	美しさ	0.26	-0.50
F	温泉	3.53	1.16
G	宿	2.26	1.76
H	珍しさ、オンリーワン	0.10	-0.03
I	歴史、文化	-0.23	-0.65
J	食べ物、名物	-0.19	0.84
K	運動	2.90	0.68
L	交通の便	1.08	-2.79
M	体験	-1.34	1.68
N	手作り作品	-1.67	1.17
O	ストーリー	-1.01	-3.52
P	資源	0.17	-0.09
K	誇り	-0.19	-1.04
R	リーダー	-0.81	-0.14

表2．軸に関するデータ

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.15	15.8%	15.8%	0.38
第2軸	0.13	13.9%	29.7%	0.36

*従来型の個性のない観光地が低迷する中、各観光地の魅力を高めるために観光振興を成功に導いた人々のことである。

の３タイプに分類することができる。

ここで得たそれぞれのタイプについての構成要素（プロット要因）と代表事例を表３にまとめる。

４．地域活性化における観光の位置付け

はじめに述べたように、これからの地域社会では観光によるまちづくりが重要となってくると考えられる。そのため、地域活性化における観光の役割と位置付けを考える必要がある。そこで、まちづくりを主に行っている行政にアンケートすることにより、上述の方法で分類された３つの観光タイプそれぞれについて地域活性化への関与の仕方を調査する。地域活性化における要因の重要度を知ることにより、観光の位置付けを明確にするという方法である。アンケートでは表４に示す 11 要因のそれぞれの関連性を一対比較で調査し、デマテル法を用いて分析を行う。

分析の結果、『Ⅰ．歴史・文化型』では「⑦誇り」「⑩観光によるまちづくり」「⑧地域の一体感を」が上位となった。これより、Ⅰでは地域の誇りある歴史・文化を伝承しながらまちづくりを行うことがわかる。

次に『Ⅱ．ハード・開発型』では「①交通の便」「③雇用」が上位になり、下位には「⑦誇り」「⑧地域の一体感」が集まった。これより、Ⅱでは地域での一体感などよりも住みやすさ、快適さを重視することがわかる。さらに、「⑩観光によるまちづくり」はそれほど重要視されていないことがわかる。

『Ⅲ．ソフト・体験型』では「⑩観光によるまちづくり」「⑨他地域との交流」「③雇用」が上位となった。これより、Ⅲではまちづくりを行う時に他地域から観光客を迎え入れる体制を心がけていることがわかる。

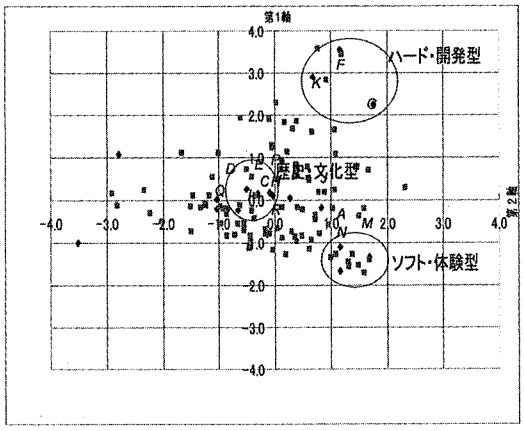

図1．サンプルプロット＆カテゴリープロット

表3．タイプ別の構成要因・代表事例

観光タイプ	要因	特徴	代表例
Ⅰ．歴史・文化型	C E H I P	昔の街並みを維持・再興した観光であり、歴史・文化を伝承していくために地域一体となって活動を行う。	「飛騨の小京都」では、古来より保存されている祭屋台の製造技術の保存・伝承に努めるとともに、新たな観光資源の開発に尽力し、地域経済の発展や観光都市高山の発展に努めている。
Ⅱ．ハード・開発型	F G K	地域の活かしきれなかった資源を行き返し、遊戯施設など新たな地域資源との融合を生み出す。	ルスツリゾートは、経営が悪化したリゾート再生において、地域の実情を最大限に活かし、かつ初期コストを抑えたリゾートの経営ノウハウで、多くの破綻したリゾート地域を救うことに繋がった。
Ⅲ．ソフト・体験型	A M N	農業体験や工芸体験などを提供し、観光客を地域の一員として迎え入れることに特徴がある。	三重の農業体験では、無添加のハム等の地域ブランドを開発し、農畜産物の手づくり体験等に取り組み、消費者の組織化を図ることで、交流を行っている。

表4．地域活性化における要因

①	交通の便が良いこと（交通の便）
②	高齢者や障害者などが住みやすいこと（住みやすさ）
③	地域に雇用があり、安定した生活ができること（雇用）
④	地域に根ざした産業が新たにおこること（産業）
⑤	充実した余暇が過ごせること（余暇）
⑥	日常生活に必要な物が地域で手に入ること（日常生活品）
⑦	地域に誇りが持てること（誇り）
⑧	地域の一体感を感じることができること（地域の一体感）
⑨	他地域との交流が行われていること（他地域との交流）
⑩	観光による新たなまちづくりが行われること（観光によるまちづくり）
⑪	自然環境の保全がなされていること（自然環境の保全）

表5．地域活性化要因の重要度順位

	Ⅰ型	Ⅱ型	Ⅲ型
1位	⑦誇り	①交通の便	⑩観光によるまちづくり
2位	⑩観光によるまちづくり	③雇用	⑨他地域との交流
3位	⑧地域の一体感	④産業	①交通の便、③雇用
4位	⑤余暇	⑤余暇	
5位	⑨他地域との交流	⑩観光によるまちづくり	⑥日常生活品
6位	②住みやすさ	⑪自然環境の保全	②住みやすさ
7位	①交通の便	②住みやすさ	⑤余暇
8位	③雇用	⑨他地域との交流	④産業
9位	⑥日常生活品	⑥日常生活品	⑧地域の一体感
10位	④産業	⑧地域の一体感	⑦誇り
11位	⑪自然環境の保全	⑦誇り	⑪自然環境の保全

５．まとめ

本研究では，観光カリスマの事例をもとに，観光が地域活性化にもたらす役割について分析した。観光事例は３つのタイプに分けられること，またそのタイプごとの観光が地域の活性化においてどのように位置づけられるかを明らかにした。今後，各タイプごとの条件やそれにふさわしいまちづくり方策について，検討する必要があると考えている。